

# 仏光寺通界限

## ～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・(公財)京都市埋蔵文化財研究所

### 仏光寺通界限周辺の発掘調査

仏光寺通は平安京のほぼ中央を東西に通る五条坊門小路にあたります。浄土真宗十派の一つである仏光寺が、この地に移転して以来、仏光寺通の名前となりました。仏光寺通沿いの堀川通以東は、中世から近世にかけて下京の中心地として栄えたところです。周辺の発掘調査では、中世以降の当地域の活発な商業や生活の様子を示す多数の建物の柱穴や井戸跡と墓跡などと共に、多量の土器や陶磁器類が発見されています。また、下京の町全体を囲む惣構(そうがまえ)と称された大規模な堀跡も見つかりました。平安京造営以前には、弥生時代から古墳時代にかけての烏丸綾小路遺跡が、北は錦通付近から南は五条通少し南まで、東は堺町通から西は猪熊通付近までの範囲に広がっていました。発掘調査では住居跡や墓跡、流路跡などが発見され、弥生時代から古墳時代における京都盆地の中心的集落の一つであったと考えられています。また、仏光寺通界限の西側にあたる壬生地区では近年、発掘調査が増加し、平安時代前期の綾小路の路面や側溝、池跡などが見つかり多くの成果が得られています。

#### ⑥ 平安京左京五条三坊九町跡 烏丸綾小路遺跡

2008年5月から9月にかけて烏丸通と綾小路通の交差点から西へ約50m入った所で発掘調査が行われ、室町時代の酒屋とみられる地下倉庫跡や甕を据えた穴、土葬の墓跡などが見つかりました。穴には常滑焼の甕が据えられており東西6列、南北6列に整然と並んでいました。墓跡は9基あり、特に残りの良いものは方形の墓穴に木棺が納められ、中には土師器皿が数枚と水晶製の数珠玉やガラスの小玉、鉄製の小刀、輸入陶磁器も副葬されていました。



中央に甕が据えられた穴が並ぶ



たくさん土師器皿が納められた室町時代の土葬の墓跡



墓に埋納されていた青銅鍋や鉄製の短刀



水晶製の数珠玉やガラス小玉

#### ① 寺町旧域

平安京東京極大路の東の京域外、東西道路である綾小路の延長上にあたる旧永松小学校の跡地で、1984年に発掘調査が行われました。豊臣秀吉の都市改造以降、この周辺が寺町として発展していったことはよく知られています。調査地は『洛中洛外図屏風』(寛永14年作製)によれば「大雲院」の一角であることがわかります。大雲院は境内地が転々と移動した寺院で、現在は東山区の円山音楽堂の西側にあります。はじめは二条烏丸に創建され、その後、秀吉の命で寺町四条南に移転しました。調査では鴨川の氾濫による砂礫層の上に平安時代の整地土や、室町時代から江戸時代の井戸跡、溝跡、柱穴跡などが見つかり、土器、陶磁器なども多数発見されました。江戸時代前半期を中心に輸入品を含む陶磁器類も多数見つかり、京内外の陶磁器類を研究する上で良好な考古資料となりました。



大雲院跡のようす



外面に「金」「玉」「満」「堂」の四文字が描かれ、見込みに「魁」の文字が描かれた赤絵の鉢(明製品)

#### ⑦ 平安京左京四条三坊十二町跡 烏丸綾小路遺跡

この辺りは烏丸綾小路遺跡の北側にあたり、これまでの発掘調査で竪穴建物跡や墓跡、それらを取り囲む濠跡などが発見され、四条烏丸周辺から南西に広がる集落であったことが明らかになっています。2006年に四条烏丸の交差点北西角で、弥生時代中期から後期(約2000年前)の竪穴建物跡と墓跡(方形周溝墓)が見つかりました。弥生土器も多く出土し、集落でのくらしぶりの一端が明らかになりました。



中央の逆「へ」字形の溝が方形周溝墓、右端手前には竪穴建物跡の一部が見える



弥生時代の竪穴建物跡 破線は推定範囲

#### ② 平安京左京五条四坊九町跡

現在の四条通と富小路通の交差点の南西で1990年5月から発掘調査が行われ、室町時代以降の井戸跡や建物跡などが見つかりました。また、江戸時代前半の土器や陶磁器類と共に、京都市内でも出土例が少ない一分金が発見されました。4枚で一两(小判一枚)にあたります。表には五三の桐紋、裏には「光次」と陽刻され、金座で鑄造された正規の貨幣であることもわかりました。当地は下京の町屋の一角にあたり、商業活動の一端を示す貨幣資料となっています。



オフィス街の一角での発掘調査のようす 写真上に祇園祭の山鉦巡行が見える



表(左側)に五三の桐紋、裏(右側)に「光次」と陽刻された一分金、大きさは1.75cm×1.00cm、厚さ1.5mm

#### ⑧ 平安京左京四条三坊十一町跡 烏丸綾小路遺跡

1992年4月に錦小路通室町東の建物新築工事の立会調査で、弥生時代中期の遺物を多く含む土層から建物が線刻された絵画土器の破片が発見されました。土器の表面には屋根とその先にある渦巻き状の飾りやそれを支える棟持柱、屋根の下には斜線で軒下と柱がへうのようなもので描かれています。復元すると50cmを超える胴廻りを持つ壺で、大阪の河内地域でつくられ持ち込まれたものであることもわかりました。



建物を線刻で描いた弥生土器の破片

#### ⑨ 平安京左京五条三坊八町跡 烏丸綾小路遺跡

1991年1月に発掘調査が行われ、弥生時代から江戸時代の溝跡、柱穴跡、井戸跡、建物跡などが見つかりました。その中で弥生時代中期の南北方向の溝跡は、烏丸綾小路遺跡にかかわる人工の溝跡として最初の発見例となりました。この溝跡は集落の西端を限る溝とみられ注目されます。なお、周辺では弥生時代の自然流路も見つかっています。



弥生時代の遺構のようす 集落の西を限る溝跡(写真△)

#### ③ 平安京左京五条四坊二町跡 烏丸綾小路遺跡

左京五条四坊二町跡は現在の烏丸通綾小路の東側にあたり、平安時代後期に公家の高階泰仲(たかしなやすか)邸宅地があったところです。室町時代以降は下京の町として発展、江戸時代前期には仏光寺の門前町として栄えました。1992年7月から翌年1月にかけて行われた旧豊園小学校内の発掘調査で、中世の下京の町全体を囲む西側の「惣構」と称される防衛用の堀跡が発見されました。堀跡は幅約7m、深さ約2mと大規模で中世の下京のようすを知る上で貴重な資料となっています。



室町時代の下京の町を囲む防衛用の堀跡

#### ④ 平安京左京五条三坊十一町跡 烏丸綾小路遺跡

左京五条三坊の地は現在、市内でも有数のビジネス街の一角にあり、既存の建物基礎により破壊されていることが多く遺構が残りにくいです。2007年7月、室町通東仏光寺通沿いの南側で発掘調査が行われ、平安時代の南北方向の溝跡が見つかりました。平安時代の仏光寺通は五条坊門小路と称され、南北溝は小路に面した十一町内の宅地を区画する溝であることがわかり、貴重な成果となりました。



平安時代の遺構 中央には宅地を区画する溝跡が見られる

#### ⑩ 平安京右京五条一坊二町跡

2006年8月にJR山陰線複線化高架工事に伴う発掘調査で平安時代前期の園池跡や綾小路路面・側溝跡などが発見されました。路面跡は中世の溝跡に分断されていますが、池の洲浜(すはま)跡からは平安時代の土器と共に瓦や銭貨、墨で文字が書かれた木簡などが見つかりました。木簡には平安京の造営事業にかかわった労働者への食料や功銭(賃金)などが記されており、当時の労働実態や経済状況を示す貴重な資料となりました。



見つかった綾小路路面跡と南側溝跡

#### ⑤ 平安京左京五条三坊十町跡 烏丸綾小路遺跡

1981年4月から7月にかけて建物新築工事に伴う発掘調査が行われ古墳時代から江戸時代の井戸跡、柱穴跡、墓跡、ごみ捨穴と共に土器なども多数見つかりました。調査地は十町の北東部にあたり平安時代前期から後期の井戸跡や柱穴跡なども見つかりました。平安時代の井戸跡は残りがよく縦板を組み合わせて井戸側をつくり底には曲物が据えられていました。犬が埋葬された墓とみられる室町時代の方形の穴も見つかりました。



古墳時代から江戸時代の遺構のようす



◀平安時代中期の井戸跡 底には曲物が据えられている



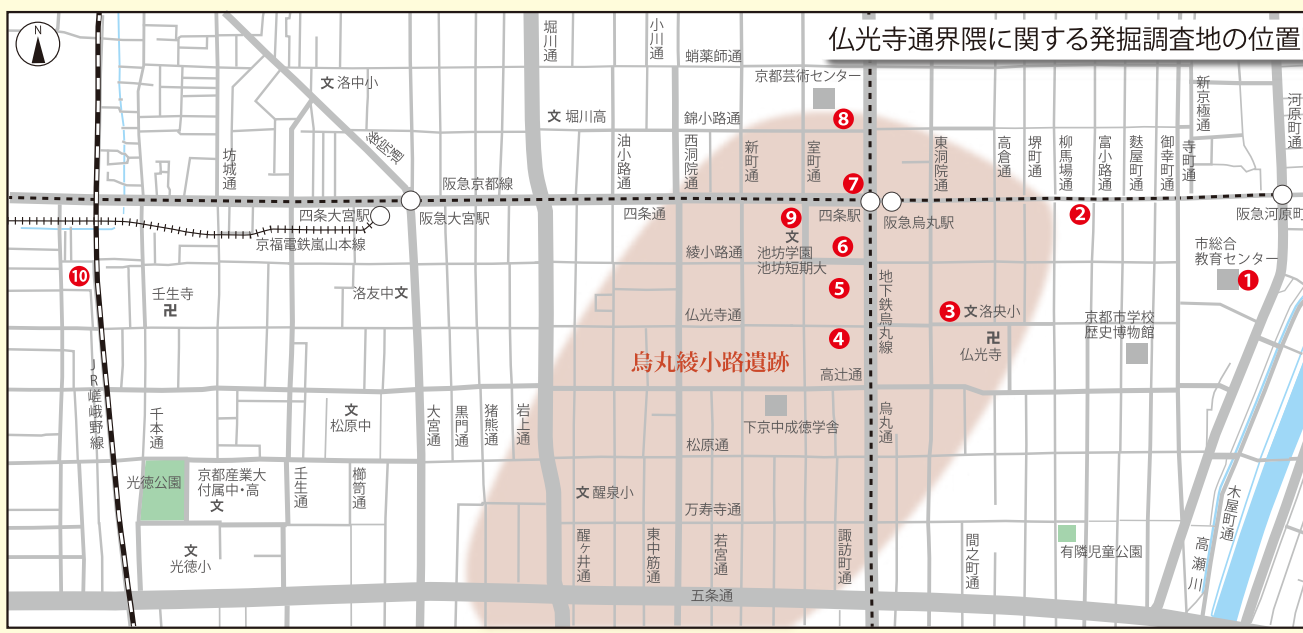
犬2頭が埋葬された墓



池の洲浜跡



池跡から出土した木簡



資料提供：公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 壬生周辺

古来、泉が湧き出る湿地帯で当初「水生」の名がありましたが、江戸時代からのどかな田園風景が広がって「壬生」と表記され、「壬生菜」などの農作物の産地として知られていました。幕末、新選組が活動の拠点にした地で、古い佇まいを残す新選組ゆかりの地として賑わっています。

## 1 光縁寺 (こうえんじ)



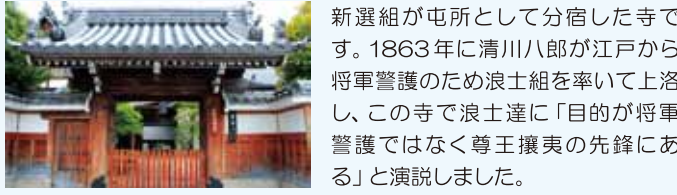
江戸時代に創建された浄土宗の寺で、知恩院の末寺にあたります。墓地には新選組副長山南敬介(さんなんけいすけ)ほか新選組隊士の墓があります。山南敬介が住職良善上人との交流が深かったことから埋葬されることになったと伝えられています。

## 2 壬生寺 (みぶでら)



991年に快賢僧都(かいけんそうず)により創建された寺です。本堂は火災により焼失し昭和45年に再建されました。毎年盛大に上演される壬生大念仏狂言(重要無形民俗文化財)は、1300年に当で円覚(えんがく)上人が始めた大念仏の教えを後に無言劇としてしたもののがその始まりです。境内の壬生塚には近藤勇の胸像や芹沢鴨らの墓があります。壬生寺資料室では壬生狂言や新選組に関する資料などが展示公開されています。

## 3 新徳禅寺 (しんとくぜんじ)



新選組が屯所として分館した寺です。1863年に清川八郎が江戸から將軍警護のため浪士組を率いて上洛し、この寺で浪士達に「目的が將軍警護ではなく尊王攘夷の先鋒にある」と演説しました。

## 4 新選組屯所前川邸 (しんせんぐみとんしよまえかわてい)



## 5 新選組屯所前川邸 (しんせんぐみとんしよまえかわてい)



1863年から2年間、壬生の前川荘司邸は、將軍警護のため江戸から上洛した浪士組(のちの新選組)の屯所となりました。

市中心部では統合で使われなくなった小学校を活用し、地域貢献の施設として利用されています。元・開智小学校は、明治2(1869)年に始まる日本初の学区制小学校である番組小学校の紹介、資料(教科書・文献資料・教材等)、美術工芸品(絵画・書跡・陶磁器・染織等)を展示する学校歴史博物館になっています。

入館料 / 大人200円 小人(小・中・高校生)100円 (20名以上の団体は大人160円 小人80円) 京都市内の小・中学生は土・日無料 開館時間 / 9:00~17:00(入館は16:30まで) 休館日 / 水曜日(祝日の場合は翌平日) 12月28日~1月4日

## 6 新選組屯所八木家 (しんせんぐみとんしよぎや)

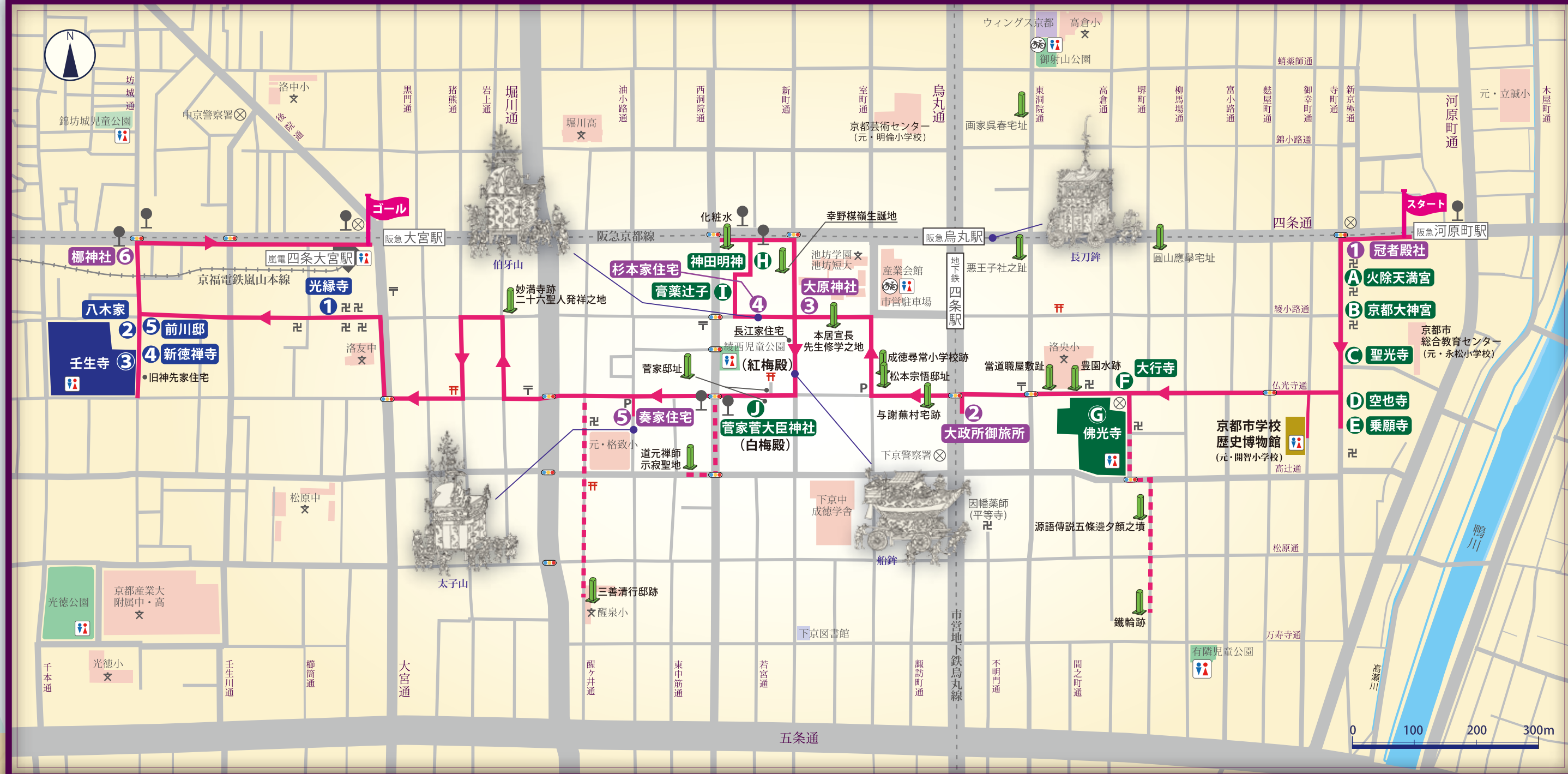


新選組局長らの宿所。1863年3月、ここ八木家で芹沢鴨(せりざわかも)、近藤勇らが新選組を結成し、芹沢一派の肅清を経て、局長近藤勇、副長土方歳三の体制で京都守護職松平容保(まつだいらからたもり)の庇護のもと幕末京都の治安警察部隊を務めました。



# 仏光寺通界限

京都の近代化とともに変貌した四条通とは違い、旧来の街並みや歴史を持つ見どころが点在しています。この地図では、歴史がある寺町通の寺社を起点に、新選組の壬生屯所で知られる壬生寺付近まで歩き、石碑や史跡、寺社を紹介しています。また、この地域は祇園祭の会所も多く、重要文化財や府・市指定登録文化財の近代建築を見ることができます。綾小路通周辺は弥生時代からの「綾小路遺跡」としても知られます。長い歴史の重なりが見られる仏光寺通界限を歩き、これらの見どころを巡りながら歴史散策を楽しんでください。



Map navigation icons: マップ目印, おすすめルート, 寄り道ルート, バス停, トイレ, 警察, 神社, 寺院, 石碑

### A 火除天満宮 大雲院跡地

大雲院は、僧貞安(じょうあん)が織田信長・信忠(法号は大雲院)父子の菩提を弔うため開山した寺です。豊臣秀吉の命で1590年この地に移され、1973年に祇園閣がそびえる円山公園南に移転しています。火除天満宮は、大雲院の鎮守社として迎えられました。蛤御門の変(1864年)では奇跡的に類焼を逃れ、学問成就とともに火除の神の信仰があります。

### F 大行寺 (たいぎょうじ)

寺伝では、1821年に仏光寺高倉の豊臣秀吉の月見御殿跡に建立され、1853年に当地に移されました。境内には足指に祀り入った大行寺佛足跡碑があります。

### B 京都大神宮 (きょうとだいじんぐう)

明治維新により江戸時代末期から盛んであったお伊勢参りが叶わない人々のために設けられた神宮です。本殿は、一条家の玄関及び玄関正面の書院を移築したもので、唐破風の優美さは、日本有数と言われています。手水舎(てみずや)の水盤は、もと伏見城にあったものを移築したと伝えられています。

### G 佛光寺 (ぶつこうじ)

真宗佛光寺派の本山。浄土真宗の宗祖である親鸞が越後から戻った1212年に開いた寺で、当初は山科東野にあって「興隆正法寺(興正寺)」と称しました。以前は同じ浄土真宗本願寺をしのぐ勢力があり、境内の御影堂や阿彌陀堂は明治時代に再建されたものです。

### C 聖光寺 (しょうこうじ)

寺伝によれば、当地に平安時代後期、仏師康慶(こうけい)の居ろがあり、その後園に借鏡西(ちんげい)の草庵があったと伝えます。境内には赤穂藩頭家老大石良雄の母と天野屋利兵衛の墓があります。

### H 神田明神 (かんだみょうじん)

この地は天慶の乱で敗死(940年)した平将門の首級が晒された場所とされ、祟りが頻繁したため祭神として神社が建てられました。のちに空也上人が手厚く供養したと伝えられます。

### D 空也寺 (くわやじ)

寺伝によれば、972年空也上人が錦小路西洞院に開基し、当初天台宗に属しましたが、浄土宗に改宗したと伝えます。1591年豊臣秀吉の命により現在地に移転しました。本尊は阿彌陀三尊像、本堂には空也上人像が安置されています。

### I 青葉辻子 (こうやくすし)

新町通と西洞院通の間で、四条通から綾小路通に入る小路。平安時代、この地に空也上人が平将門の霊を弔うため道場を開き、これを「空也供養の道場」と呼び、「空也供養」が転訛して「青葉」になったとされています。

### E 乗願寺 (じょうがんじ)

加藤清正の重臣森本儀太夫とその息子森本右近太夫の墓があります。江戸時代の初め、右近太夫は「祇園精舎」を訪れるためカンボジアの遺跡アンコール・ワットに向かい、「父の後生を祈るため四体の仏像を納めた」という墨書を残しました。

### J 菅家・菅大臣神社 (かんげ・かんだいじんじんじゃ)

菅原道真を祭神とする神社。「紅梅殿・白梅殿」といわれる邸宅跡や、「菅家廊下(かんげろうか)」と称する学問所の跡があり、道真誕生の地とも伝えられています。境内には産湯の井戸が保存されています。

# 鉾町周辺

## 1 冠者殿社 (かじでんしゃ)

八坂神社の境外末社で、祭神はスサノオノミコトアラタマ。烏丸高辻にあった八坂神社大政所御旅所に鎮座していましたが、社伝では御旅所の移転に伴い慶長の初めに現在地に移転したといわれています。祇園祭では神輿が留まる御旅所へ、七日七晩無言で参詣する「無言詣」なども行われます。

## 2 大政所御旅所 (おほまんどころおたびしよ)

社伝によれば、丹波国から勧請された神社です。2002年、神社境内に祇園祭の綾傘鉾の会所が完成しました。

## 3 冠者殿社 (かじでんしゃ)

社伝によれば、丹波国から勧請された神社です。2002年、神社境内に祇園祭の綾傘鉾の会所が完成しました。

## 4 杉本家住宅 (すぎもとけいじゅうたく)

「奈良屋」の屋号で1743年に京都・四條烏丸に呉服商として創業し、1767年に当地に移りました。現在の建物は1870年に上棟された「表屋造」形式の建築で重要文化財に指定されています。祇園祭では伯牙山(はくがやま)のお飾場となります。庭園は国指定名勝です。

## 5 秦家住宅 (はたけじゅうたく)

市登録有形文化財。江戸時代から業屋を営んでいた旧家で、主屋は表の店舗と奥の居住部を玄関でつないだ「表屋造」形式の建築です。1869年頃建てられ、1902年に増築。祇園祭の太子山町にあります。

## 6 柳神社 (なぎじんじ)

元祇園柳ノ宮神社とも呼ばれています。境内には大正時代に式内大社車神社(はやぶさじんじ)が遷座し、ともに厄除けの神として信仰されています。現在の八坂神社が創建されたとき、近隣の住人は花飾りの風流傘を立て、鉾を振り、音楽を奏して八坂に神輿を送ったといわれ、これが祇園祭の起源と伝えられています。



山鉾巡行を前に各鉾町では山鉾建てが行われます。巡行時の総重量が10トンにもなる鉾もあり、釘一本使わない見た目にも美しい縄がらみの伝統技法で40人もの人を乗せる安定した仮設構造体の鉾が組立てられます。

